

「能登地区にも養護学校を」との強い要望と「つくるなら類例をみない学校を」との当局の意向が期せずして一体化する中で52年12月起工、54年4月開校にこぎつけた。敷地は農業高校の実習地であった現在地。緑濃く静かな環境であるが起伏が多く西と北に崖をもつ三角形の土地。この土地条件の中で、校舎、運動場、寄宿舎を機能的に配置するために、さまざまな工夫が凝らされた。一方校舎の設計であるが、多様な障害の子供の教育にふさわしいきめ細かい配慮をすると共に、学校は四角いものという常識を排した設計がみられ、建物としての変化と調和に心を配ってある。塔のある学校として親しまれている小体育館の赤い屋根も、仰ぎ見る者に夢を与えると共に、中には高架タンクと煙突を包みこむ実用的機能を果たしている。スマートなホテルを思わせる外観のみならず、下から暖まる床暖房など、単なる箱づくりとしての設計以前の思いやりの心が随所に見られる。

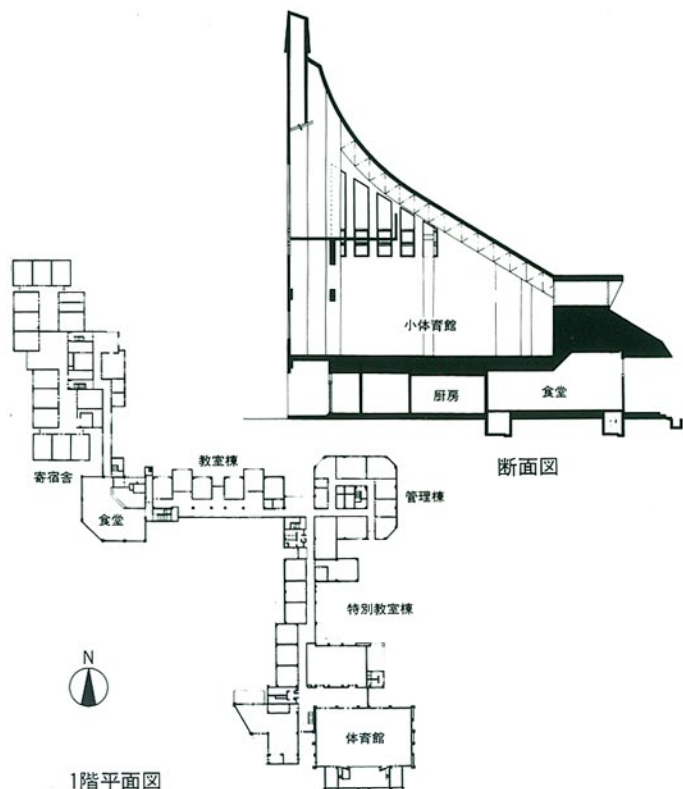
池田三郎 (元七尾養護学校長)



- | | |
|--------------|------------|
| 校舎 | 体育館 |
| ●竣工年度/S.53 | ●竣工年度/S.53 |
| ●構造/RC造 2階 | ●構造/S造 |
| ●延床面積/2,589㎡ | ●延床面積/239㎡ |



浴室



1階平面図